

埋蔵文化財通信

みやざき

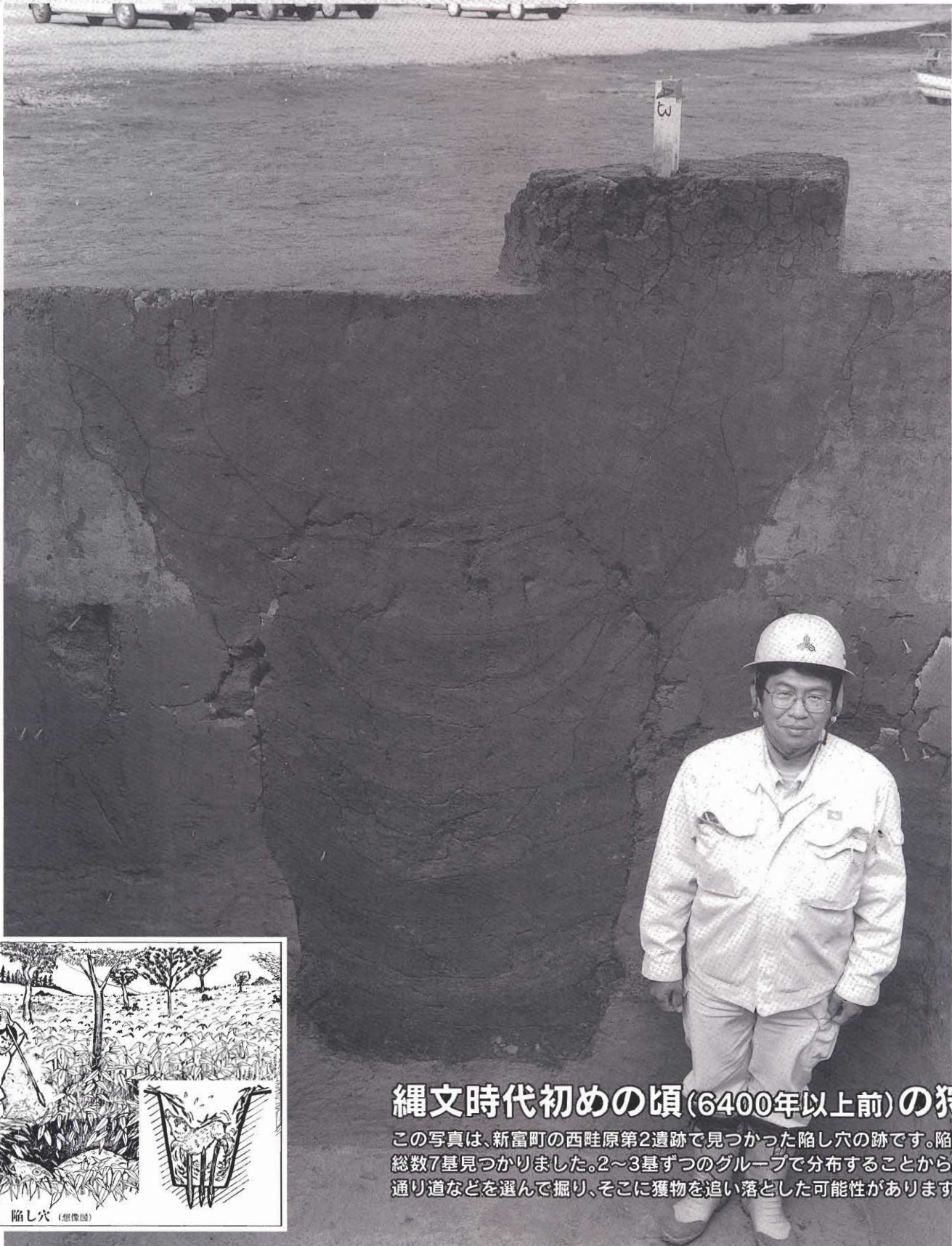
第5号

発行日 平成16年2月20日

発行 宮崎県埋蔵文化財センター

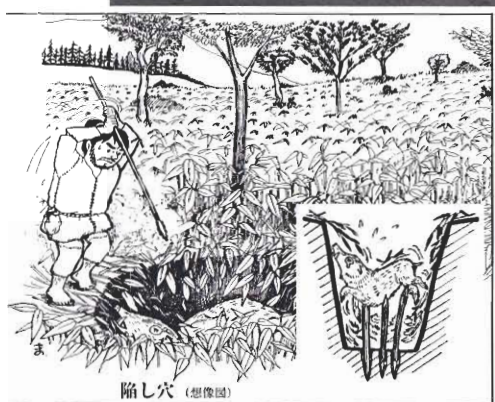
本館 〒880-0212 宮崎県佐土原町下那珂4019番地

神宮分館 〒880-0053 宮崎市神宮2丁目4-4



縄文時代初めの頃(6400年以上前)の狩猟

この写真は、新富町の西陸原第2遺跡で見つかった陥し穴の跡です。陥し穴は総数7基見つかりました。2~3基ずつのグループで分布することから動物の通り道などを選んで掘り、そこに獲物を追い落とす可能性があります。



陥し穴 (想像図)

場を使い分けていた旧石器時代

【旧石器時代:約12000年以上前】

焼けた礫のまとまり(礫群)が集中している場、石器のかけらやハンマー、敲石が集中している場、皮をなめすのに使われたと考えられる石器がまとまって分布する場が見つかっています。このことから、それぞれ「火を使う場」・「石器製作の場」・「作業の場」など、場を使い分けていることがわかってきました。旧石器時代のくらしが見えてきました。



出土した石器 (高鍋町 牧内第1遺跡)

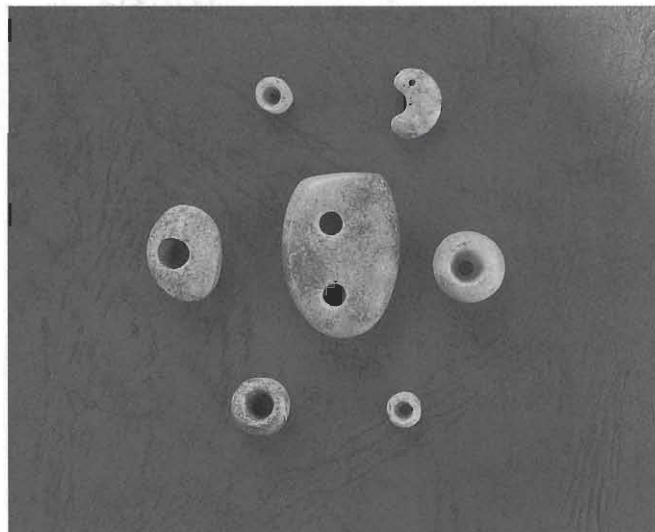


牧内第1遺跡の遺構検出状況 (石器製作の場)

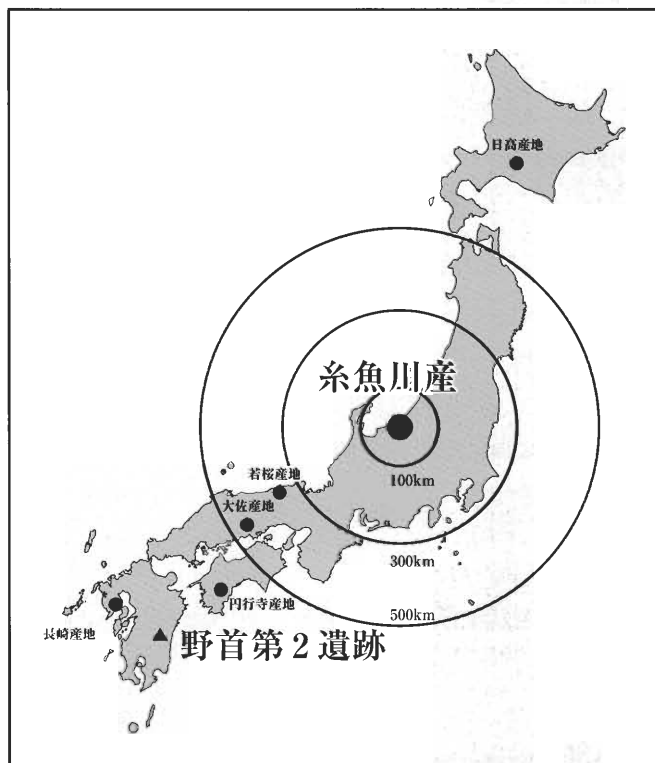
縄文時代に北陸と交易!?

【縄文時代:約12000年前～2500年前】

翡翠の石製品が発見されました。翡翠は板ガラスやナイフの刃よりも硬いのですが、穴をあけて垂飾りにしたようです。どうやって穴をあけたのでしょうか。さらに驚くことに、翡翠の材質や製品の形から「糸魚川産」(新潟県)の可能性が指摘されています。宮崎から直線距離にして約800km。宮崎までどうやって運んできたのでしょうか。



翡翠の石製品 (高鍋町 野首第2遺跡)



翡翠産地と野首第2遺跡

時代とともに変化する埋葬形態（弥生～近世の墓制）

【弥生～古墳時代：約2500～1300年前】

弥生時代から古墳時代には、特定の個人が手厚く埋葬されることが顕著になります。

西都原古墳群は、その代表例です。

また現在、調査中の高鍋町の野首第1遺跡には、横穴式石室をもつ野首1号墳(写真①)、野首2号墳があります。遺体を納める石室は、大きな丸石で組まれています。この時代までの、埋葬は土葬が一般的です。

【古代：約1300～800年前】

古代になると、県内では火葬が行われるようになります。高鍋町の老瀬坂上遺跡では、須恵器短頸壺を骨蔵器とする火葬墓が見つっています。(写真②)現代のように、火葬した骨を壺の中に納めていたようです。

中央(奈良、京都)では、仏教思想の浸透とともに、火葬が開始されており、県内の火葬の始まりも、仏教思想の地方への広まりとの関連が想像されます。



写真①：横穴式石室（高鍋町 野首1号墳）



写真②：骨蔵器（高鍋町 老瀬坂上遺跡）

【中世：約800～400年前】

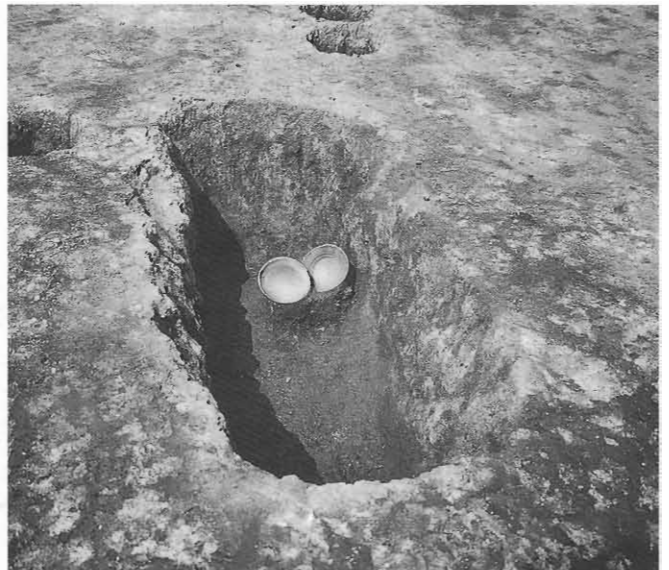
中世初期にいったん行われなくなったと思われる火葬は、13～14世紀にかけて再び盛んになります。佐土原町の平田迫遺跡では、その時期の骨蔵器が出土しています。

また、中世の墓は、川南町の前ノ田村上第1遺跡でも見つっていますが、こちらは土葬の墓です。(写真③)。また、遺体と一緒に、墓に銭(六道銭)を埋めるようになるのも中世からです。

【近世：約400～130年前】

この時代の墓は、ほとんどが土葬であったと考えられています。川南町の銀座第1遺跡では、土葬の墓(土壙墓)が14基検出されており(写真④)、そのうち7基から銭(六道銭)が出土しています。

銭種は「寛永通宝」がほとんどで、1枚だけ納めている墓もあれば、3枚から7枚の複数枚を納めた墓もあります。この後、明治になると再び火葬が増えていきます。



写真③：土壙墓（川南町 前ノ田村上第1遺跡）

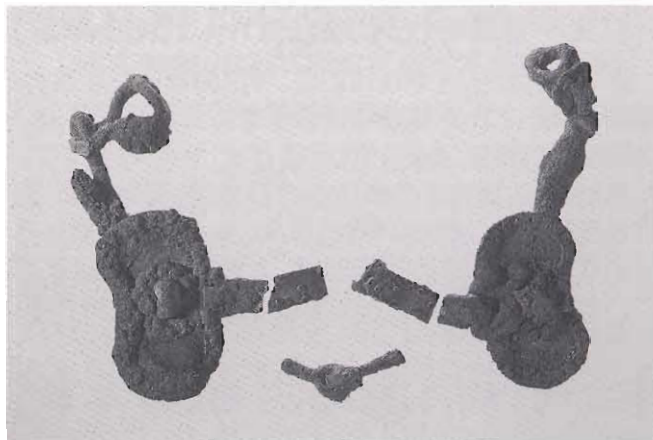


写真④：土壙墓（川南町 銀座第1遺跡）

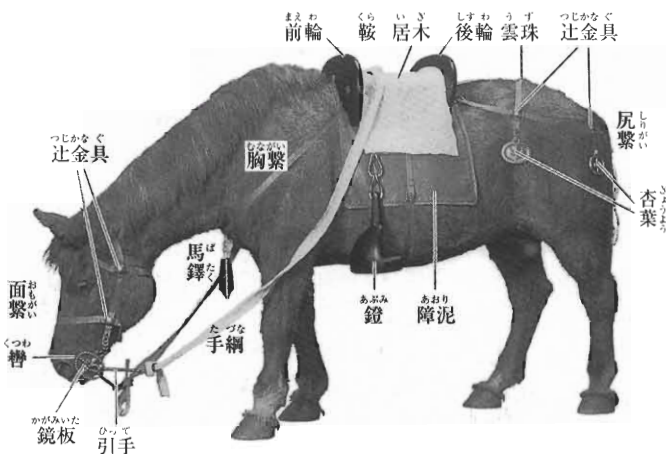
古墳時代の馬具をセットで発見！ (山崎上ノ原第2遺跡、山崎下ノ原第1遺跡)

遺跡は、県道宮崎島之内線の西側に位置します。調査の結果古墳時代の竪穴住居跡や古墳の周溝、土坑など貴重な遺構、遺物が多数検出されました。中でも、馬埋葬土坑から鉄地金銅張製馬具がセットで一括出土したことは特に注目されます。

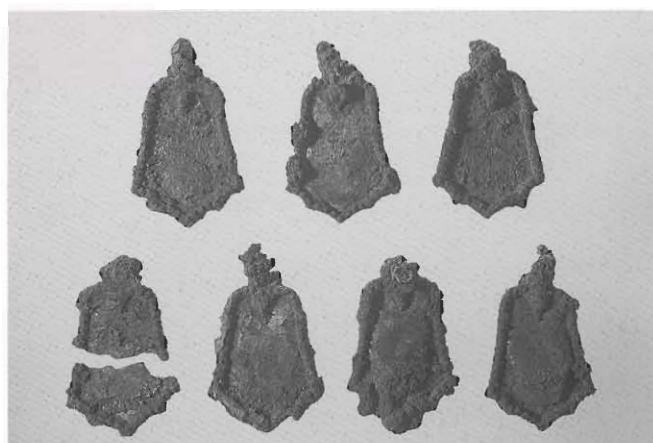
鉄地金銅張製の馬具がほぼ一式、比較的良好な状態で馬埋葬土坑から出土し、しかも当時の状況がよくわかるのは県内で唯一の例といってもよいものです。また、分析の結果、獣毛が付着していた可能性が高く、馬具を装着したまま埋葬されたと考えられます。



かがみいたつきくつわ
鏡板付轡 (山崎下ノ原第1遺跡 16号土坑出土馬具-1)



古墳時代の飾り馬と馬具の名称
(長野県立歴史館「古代シナノ武具と馬具」より)



ぎょうふよう
杏葉 (山崎下ノ原第1遺跡 16号土坑出土馬具-2)

冬の埋文行事と発掘調査情報！

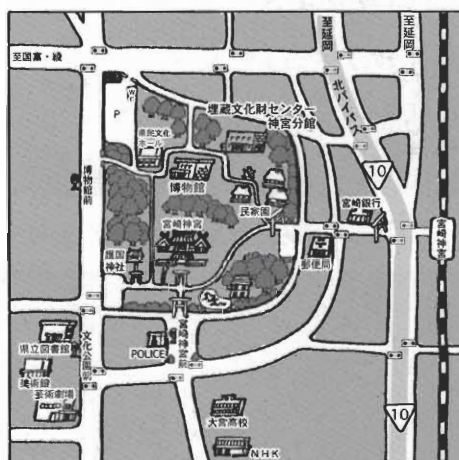
○発掘調査情報

- 11月～16年1月:本宮遺跡(串間市)
- 9月～16年2月:銀座第1遺跡(川南町)
- 11月～16年3月:筆無A遺跡(都城市)
- 8月～16年3月:湯牟田遺跡(川南町)
- 4月～16年3月:野首第1、野首第2遺跡(高鍋町)
- 8月～16年3月:東畦原第1遺跡(新富町)
- 9月～16年1月:尾小原遺跡(新富町)
- 10月～16年3月:宮ノ東遺跡(西都市)
- 11月～16年3月:山田遺跡(延岡市)
- 11月～16年3月:吉野遺跡第三次(延岡市)
- 11月～16年3月:赤木第8地点遺跡(延岡市)
- 5月～16年3月:平田遺跡(都城市)
- 16年1月～3月:筆無B遺跡(都城市)

○埋蔵文化財講座情報

- 16年1月24日:銀座第1遺跡(川南町)「中世の集落と近世の墓地」
- 16年2月28日:黒仁田遺跡(小林市)「弥生時代の集落」
- 16年3月27日:山田遺跡(延岡市)「縄文時代早期の遺跡と弥生時代の墓」

※埋文講座は、宮崎県埋蔵文化財センター神宮分館で行っています。
毎月第4土曜日午後1時30分から3時まで(入場無料)



●観覧時間

午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)

●休館日

毎週月曜日
国民の祝日の翌日
年末年始(12月28日～1月4日)

●入館料 無料

交通案内

- 宮崎神宮駅(JR) 徒歩10分
- 宮崎神宮行きバス
神宮終点下車徒歩10分
- 綾・国富・平和が丘行きバス
「博物館前」下車徒歩2分

宮崎県埋蔵文化財センター神宮分館

宮崎市神宮2丁目4-4(〒880-0053)
TEL 0985-21-1600 FAX0985-26-2634